テーマ特別賞 | ファイナリスト/審査委員賞

未来への文化共創　Traces of Earth / 地球の形跡





【STORY】
400年前、大坂城築城のために切り出されたが運ばれず、風景の中に残された「残念石」。
地域で続いた保存活動を背景に、建築家チームが起点となり、地域住民・行政・研究者らと対話を重ねた。
石は川底から引き上げられ、大阪・関西万博で建築として社会へひらかれた。未完や当初の役割を失ったものに新たな可能性を見出し、自然と人間の時間が交差する文化資源として捉え直し、既にあるものから未来の価値を共創する活動である。

【受賞者】
YuricaDesign&Architecture / yuricadesign一級建築士事務所株式会社+studio mlkke+studio on_site
滋賀を地元とする大野・小林、奈良を地元とする竹村の3人の建築家によるコレクティブ。2022年、大阪・関西万博の若手建築家20組を対象としたプロポーザルに最年少チームとして選出され、万博会場の施設設計を手がける。普段はそれぞれ独立して活動しており、万博を契機に協働。異なる視点から地域の歴史や風景、そこに在る資源を多角的に読み解き、建築へと展開している。

【審査委員講評】
行き場を失った巨大な石を前にしても歩みを止めず、困難ごと引き受けながら挑戦を続けてきた皆さんの姿に、心を動かされました。万博後は学生たちが活動の担い手になり、次の世代へ手渡そうとしています。その真っすぐな思いが、これからの新しい継承の形をつくっていくのだと思います。

未来のコミュニティとモビリティ　まちごと万博



【STORY】
「まちごと万博」は、自分のまちを“もうひとつの万博会場”にする草の根ムーブメント兼情報プラットフォームです。街で生まれるイベントやプロジェクト、人を「まちのパビリオン」と見立て、Webサイトなどで発信。企業・自治体・大学・個人が参加し、駅や鉄道、百貨店、水辺、商店街など街全体を舞台に、100件を超えるプロジェクトが展開されました。

【受賞者】
一般社団法人 demoexpo、大阪まちごと万博共創プラットフォーム(大阪商工会議所、大阪府・大阪市万博推進局、関西経済連合会、関西経済同友会)
一般社団法人demoexpoは、企業や組織の垣根を越えて、人と街の可能性を活かし、大阪から新たな挑戦を生み出す活動体です。「まちごと万博」は、街なかの万博をきっかけに活動する多様な取り組みを発信する「大阪まちごと万博共創プラットフォーム(大阪商工会議所、大阪府・大阪市万博推進局、関西経済連合会、関西経済同友会)」が連携し、一般社団法人demoexpoが協働で大阪をまちごと盛り上げました。



【審査委員講評】
地元関西の有志たちが万博に関わろうと、大阪の街へ出て、街の人たちと一緒に動き、その活動が継続している。その自発的な広がりに惹かれました。各地で同時多発的に生まれた出会いが、国内外の仲間をつなぎ、すでに次のプロジェクトへ育ち始めていることが何より頼もしいです。

食と暮らしの未来　万博レガシー「いのちの湧水」を活かすスマート循環食料生産





【STORY】
大阪・関西万博で生命循環を発信した地球儀型アクアポニックス「いのちの湧水」を大阪公立大学へ移設し、植物工場や微細気泡技術を融合した先端研究・教育拠点へ進化させる取組です。CFによる市民参画と、大学発ベンチャー(ACFP)との産学官共創により、一過性の展示を自走的な実証空間へ昇華。次世代の環境・食育教育や宇宙農業への展開を見据え、持続可能な食と暮らしの社会実装を推進しています。

【受賞者】
大阪公立大学　研究推進機構　植物工場研究センター
大阪公立大学植物工場研究センターは、高度な環境制御・水耕栽培や先端アグリ・バイオ技術の実証研究を牽引する学術拠点です。本プロジェクトでは、植物工場・陸上養殖・アクアポニックス等の社会実装を目的として設立された大学発ベンチャー「一般社団法人サーキュラーフードプロダクション協議会(ACFP)」と連携。産学官民の共創プラットフォームとして、資源循環型食料生産技術の確立と普及を推進しています。

【審査委員講評】
日本の豊かさを支えてきた水が、植物や生きものを育て、いのちの循環を生み出しています。その姿に未来の社会を考えるヒントがあると感じました。水をただ使うのではなく、いのちを結ぶものとして捉え直したこの取組から、これからの暮らしの新しい形が見えてくるように思います。

健康とウェルビーイング　誰もが、どんな時も、自分らしく生きられる社会の実現





【STORY】
当グループでは、病気や障がいの有無にかかわらず、一人ひとりが望む暮らしを支える社会を実現することを目指しています。「じぶんを生きるをみんなのものに。」をMISSIONに、業界の常識を根本から疑い、身体抑制の廃止や口から食べられる可能性を追及するなどの取組を実践しているほか、病院らしい光景にこだわらず、その人がどう暮らしに戻り、暮らし続けるかという点を追及した病院・施設を展開しています。

【受賞者】
平成医療福祉グループ
平成医療福祉グループは、1984年の創業以来、全国に100を超える病院・介護・福祉施設などを運営しています。高齢者医療やリハビリテーション、障がい者福祉、在宅医療に注力し、離島・へき地や海外でも医療を提供しています。「じぶんを生きるをみんなのものに。」をMISSIONに据えた「HMW VISION BOOK」を作成し、病気や障がいがありながらも、自分らしく生きられる社会の実現を目指しています。



【審査委員講評】
障がいや病気があっても、誰もが住み慣れた地域で、その人らしい毎日を送れる社会を目指しています。その願いを、食事や働く場など、一人ひとりに寄り添う工夫へ落とし込んでいます。特別な誰かのためではなく、みんなが自然に支え合える暮らしを目指す姿勢に、深く共感しました。

学びと遊び　アクアポニックス　めだかと野菜とかめとぼく





【STORY】
ぼくは昨年9月に大阪・関西万博に行き、初めて「アクアポニックス」を知りました。家でペットボトルを使って装置を作り、めだかを飼いながら野菜を育てました。めだかを飼育している水が野菜の栄養になったり、育った野菜は飼育しているリクガメのエサになったり、ぼくの食卓にも彩りを与えてくれました。このことから、すべての命はつながっているのだと実感しました。

【受賞者】
杉山 朝飛
ぼくは小学4年生です。植物や動物が好きで、家では野菜を育てたり、めだかやリクガメを飼ったりしています。昨年9月に大阪・関西万博へ行ったとき、初めて「アクアポニックス」を知って、魚と植物が助け合いながら育つ仕組みに興味を持ちました。ペットボトルでも「アクアポニックス」ができることを小学校の自主学習で学び、夏休みを利用してめだかを飼いながら野菜を育てるアクアポニックス作りに挑戦しました。

【審査委員講評】
万博で出会った体験を思い出にせず、小学生が自分の家でアクアポニックスを再現しました。その行動力に驚かされました。「子どもとその家族」という言葉どおり、学びが家庭の中へ入り、いのちを育てる日々へつながっています。この小さくて力強い実践を、ぜひ応援したいです。

平和と人権　世界の子どもが未来を共創する。いのち響き合う平和教育モデル





【STORY】
日本の子どもたちが世界の課題を学び、平和教材や防災教材を制作し、紛争・貧困・災害地域へ届け、その反応を教室へ還すCoRe Loopを実践。シリア、南スーダン、ウクライナ等での教育支援を通じ、戦争や紛争を経験した各国の若者・リーダーが教訓とリソースを持ち寄り、互いに学び合う場を日本が設計し、支援する／されるを超えて、平和を共創する国際的なハブへ発展している現在進行形の取り組みである。

【受賞者】
特定非営利活動法人 なかよし学園プロジェクト
特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクトは、2013年より国内外で教育支援、平和教育、人権教育を実践。日本全国50校超、ウクライナを含む世界11カ国の現場をつなぎ、CoRe Loopを展開しています。UNESCO事例掲載、JICA MAGAZINE掲載、探究・校務改革支援補助金2025採択、JACEイベントアワード受賞等を通じ、教育で世界の平和をつくる活動を継続している松戸市のNPO団体です。

【審査委員講評】
平和な未来をつくる主役は、やはり子どもたちだと思います。国や文化に関わらず平等に平和を享受できる環境をつくるために、日本でまなんだことを世界の子どもたちと分かち合い、そこで生まれた気づきを日本へ持ち帰り拡げていく、その温かな循環がこれからも広がってほしいです。

地球の未来と生物多様性　持続可能なコミュニティのためのインスパイアリングな解決策





【STORY】
スロベニア共和国クラン市を中心とする本取り組みは、スポーツ、写真、科学研究などを融合し、市民の脱炭素や地下水保全への参画を促す共創事業です。大阪・関西万博TEAM EXPOでの展示やクラゲ館でのワークショップ、東京2020大会を契機とした福井市との姉妹都市協定の締結などを通じて、地域に根ざした持続可能な環境行動を世界や次世代へ波及させる、ネイチャーポジティブな未来社会の実証モデルを提示しています。

【受賞者】
スロベニア共和国クラン市
スロベニア第3の都市クランは、雄大なユリアンアルプスの麓に位置し、歴史的な街並みとコクラ川峡谷の自然が調和する環境先進都市です。EU「気候中立でスマートな100都市」や「グリーン・デスティネーション」に選出され、水素・EVやデジタルツイン等の先端技術を導入する一方で、旧地下トンネルでの希少種プロテウスの保全や伝統の養蜂文化など、最先端技術と生物多様性が共生する持続可能なまちづくりを展開しています。

【審査委員講評】
日本の都市に緑が少ないことを考えると、都市と自然の関係を世界の仲間と問い直すこの取組に、意味を感じます。脱炭素や生物多様性は、一つの国だけでは向き合えません。国境を越えて知恵を持ち寄り、共通の対策をつくろうとする姿勢から、未来の都市の可能性が見えてきます。

SDGs＋Beyond　「いのち」を起点としたグローバル・コモンズの形成

【STORY】
2025年に発表された「いのち宣言」の精神を踏まえ、様々な現場から発せられる声を収集し分析する「いのちの声」、多様な主体が協働して具体的な行動を創出する「アクションパネル」を継続・発展させ、2030年に「いのち宣言2030」を世界に向けて発信する。
活動を通じて、次世代を含めた一人ひとりがSDGsの先を見据えた未来社会の形成に参加し、ともに未来を創る新しいコモンズをグローバルな規模で構築する。

【受賞者】
一般社団法人 いのち会議
「いのち会議」は、大阪・関西万博を契機に、2023年3月、大阪大学、関西経済連合会、大阪商工会議所、関西経済同友会を発起人として発足した。産官学民の幅広い参画のもと事業推進協議会を設けて活動し、万博終了後もその理念とネットワークを継承・発展させるため、2026年5月1日に一般社団法人化した。現在、万博のレガシーを未来につなぐ活動基盤として、新たな歩みを進めている。

【審査委員講評】
講演会などを通して、この活動には触れてきました。だからこそ活動の土台がしっかりしていることも、幅広い実践が積み重ねられていることも実感しています。これだけ丁寧に記録を残し、誰もがたどれる形で社会へ開いている姿勢に、長く続いていく取組の強さを感じました。

テーマ特別賞　ファイナリスト/審査委員賞

未来への文化共創　関西大学誠之館経建替計画〜万博の理念を未来へ〜



【STORY】
大阪・関西万博のシンボル「大屋根リング」を、2029年完成予定の関西大学新学生会館誠之館として再利用します。柱・梁・CLTを活用し、万博当時のサイズも残したまま、展覧会による本館みを再現。この木材の内装材や家具等への活用も進め、資源循環モデルを構築。万博レガシーを「残すもの」から「機能するもの＝転換させ、多様な人々の交流拠点を形成」する、学生の日常生活の中で万博の理念や記憶を未来へ継承していきます。

【メンバー】
学校法人関西大学
関西大学は、1886年の創立以来「学の実化」を理念に掲げ、教育・研究・社会貢献を通じて社会の発展に取組み、幼稚園から大学院まで37万人を擁する総合学園です。大阪・関西万博では、「TEAM EXPO 2025」共創パートナーとして、学生コミュニティ「関大万博部」を中心に、企業・自治体・他大学と30を超える共創活動を展開。万博で生まれた人のつながりや理念を、未来の教育と社会へつなぐ挑戦を続けています。

未来への文化共創　アートでつなぐ、「岡山の未来ともちづく」の





【STORY】
瀬戸内のガートウェイ（玄関口）に位置する岡山県で地域創生を重点に置いた活動を行っています。世界水準の現代アートを日常や宿なかで体感できる機会を創出する3年に一度開催の「岡山芸術交流」や現代美術館「ジビットホール」での展示や文化イベント、また、地域と連携した次世代の人材育成など、新たな交流や価値を生み出すことで、地域への誇りを育み、次世代へ文化が継承される持続的な文化都市の形成を目指しています。

【メンバー】
公益財団法人　石川文化振興財団
石川文化振興財団は、岡山を拠点に現代アートを通じた文化振興と地域の活性化に取り組んでいます。現代美術館「ジビットホール」の運営をはじめ、展覧会や文化事業、地域と連携した活動を展開しています。アートを人と人、人と地域、そして現在と未来をつなぐ存在と捉え、国内外の多様な文化や価値観に触れる機会を創出するとともに、芸術文化の振興と次世代育成、地域社会の活性化を積極的に推進しています。

未来のコミュニティとモビリティ　遠隔操縦ロボット（アバター）を山車にして引き回す村の運動会





【STORY】
TEAM EXPO 2025 共創チャレンジに参加し、日常生活の色々な作業を切り出してアバターの競技にまとめ、小学校の運動会や村祭りに似た屋外イベントを、技術・制度面の課題を解決しつつ、2023年から開いてきました。アバターおよびその利用に必要な通信技術の進化と生活通の相互理解で見える化し、地理的制約なく老若男女、障碍者/健常者が競技に参加できる活力ある未来社会の構築と早期実現を目指しています。

【メンバー】
特定非営利活動法人 けいはんなアバターチャレンジ
本NPOは「EXPO2025のサテライト万博をけいはんなで」という呼びかけに応え、2022年に地元有志が立ち上がって作りました。人馬一体を経験できるアバター山、人を移動させるけりぐるま、人の存在と参加を移動できる新しいモビリティです。老若男女、健常者・障碍者の区別なく、誰もが参加し能力を発揮できる住民参加型競技会により、分散したけいはんなる市町をつの仕会に結び付けるのが最終目的です。

未来のコミュニティとモビリティ　FactorISM -地域経済活性化のためのOS-



【STORY】
FactorISMは、大阪・八尾をはじめとする関西のまちづくりが結集し、「ものづくりの創造性を解放する」を掲げて展開するオープンファクトリー活動です。企業自らが出資する自走型で運営され、工場見学にとどまり骨太りモデル、官（マルシェ）など多様なプレーヤーが、参加した体験を創出、競合を共創の仲間に変え、若手採用やシビックプライドを育みながら、個人が憧れられ誇りを持てる地域産業エコシステムを広げています。

【受賞者】
FactorISM
「まちに一つの広場をつくる」をコンセプトにFactorISM実行委員会は、関西のまちづくりが結集した共創コミュニティです。年々減少していくまちづくりの現状に危機に感じ「ものづくりの創造性を解放する」を掲げ、大企業、地域経済、共創プロジェクトを創発、大学とも次世代教育を展開して課題の現場を越えて個人が誇りを持ち若者が憧れる持続可能な地域産業エコシステムの構築に挑んでいます。



髙橋裕樹
審査委員賞

【審査委員講評】
工場を開放、アトツギや地域の、クリエイターが顔を合わせることで、ものづくりが文化として動き始めています。展示の見せ方にも、人と仕事をつなげる工夫やクリアイディアがあり感じた。参加した一方の人だけが自分の名前で、次の仕事や協働へ踏み出せる場として、これからも活動を続けていってほしいです。

食と暮らしの未来　種を蒔くクロニクル



【STORY】
5つのアクションで風土に根差した食文化をアーカイブします
①各地の在来種と絶え料理を発掘で種と育て」開催②海外資材に頼らず独自の種を守り続ける農家の営みをアーカイブ③トップシェフが一堂に会し「新たな種と料理」を創出・発表。その軌跡を一冊に編纂④「未来に向けて何を遺すべきか」問い直す重層的な対話を展開5千径20km圏内で完結するプラネット、スタイルの自律型農売所の創設支援



【メンバー】
オーガニック直売所タネト
美津園　おじ〜ちゃん　1975年生。東京都出身。業物依存度のシンクタンク勤務を経て、2003年夏にオーガニックベンを、2019年にオーガニック直売所タネトをふたる。2013年には長崎・雲仙に移り住み、以来「種を蒔くデザイン屋」「種と共に」「THA BLUE HARVEST」「雲仙たねの学校」など、ライフワークとして様々な企画を手がけている。

健康とウェルビーイング　認知症になっても輝けるまちへ〜100万羽の折り鶴と伴に〜



【STORY】
「万博への来場者を折り鶴で迎えよう」と始まった本活動は、認知症の人が支えられる側から、人や地域をつなぐ「まちづくりの主人公」へと変わるきっかけを生み出した。認知症の人が誰かの笑顔のために1枚を折ることで「いのち輝く実感」が生まれ、その笑顔に関わる立場や世代に1歩の笑顔に貢献できた喜びが生まれた。誰もが誰かの役に立てる、誰もが誰かを支援する、誰もが誰かに支援を受けていける輪と循環が広がっている。

【受賞者】
ゆめ伴ロボプロジェクト門真実行委員会
ゆめ伴ロボプロジェクトは、「認知症になっても輝けるまち」をめざし、2018年に門真市で始まった共生社会のまちづくり活動である。認知症の人を「支えられる側」と捉えるのではなく、地域の一員として役割を持ち、活躍できる場を創出。カフェ、街、小売づくり、スポーツイベント、折り鶴など、認知症の人も地域の人も共に楽しみながら活動し、「認知症になっても輝くという新しい認知症観を広げている。



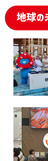
宮田裕章
審査委員長

【審査委員講評】
認知症になっても、一人ひとりが役割を持ち、自分らしく輝き続けられるまちを願い、当事者と地域の皆さんが折り鶴をつないできました。たとえ老いや病があっても、わたしたちはWell-Beingに生きることが出来る。そのことを実践していく姿に、未来への希望を感じました。

学びと遊び　万博読書会―読む、気づく、語る



【STORY】
万博をテーマにした読書会です。大阪・関西万博でふに残った体験や、そこから広がった「好き」につながる本を持ち寄り、読書と交流を楽しんでいます。来る度に異なる顔ぶれで、感じたことを言葉にして共有します。さらに他の参加者の本や話に触れることで、自分では選ばなかった分野や新たな視点に出会い、興味の幅が広がっています。万博で学生たち「好き」を、開催後も次の学びや出会いへつなげていくことを目指しています。



【メンバー】
岡崎 光政
俳句の魅力に引き込まれ、2018年に「俳句甲子園」に出場。以来、俳句の楽しさを伝えるため、全国各地で俳句大会の運営に携わってきました。2021年に「俳句甲子園」の運営スタッフとして参加。2022年に「俳句甲子園」の運営スタッフとして参加。2023年に「俳句甲子園」の運営スタッフとして参加。2024年に「俳句甲子園」の運営スタッフとして参加。2025年に「俳句甲子園」の運営スタッフとして参加。

学びと遊び　ふしぎな石ころ"echorb"を活用した「発明の授業」







【STORY】
村田製作所と立命館が共同開発した探究型授業プログラムです。万博で生まれた"ふしぎな石ころ"echorb（エコーブ）を教材に、子どもたちが発見の思考や協働を促体験、身近な社会課題を発見し、科学技術を活用して理想の未来や解決策を"発明"として構想する学びを通じ、産学の知見を融合し、万博で生まれた問いや価値観を次世代教育へ実装する共創型モデルとして展開しています。

【メンバー】
株式会社村田製作所・学校法人立命館 STEAM教育推進専学連携プロジェクト
株式会社村田製作所はセラミックスをベースとした電子部品の開発・生産・販売を行っている世界的な総合電子部品メーカーです。学校法人立命館は立命館大学、立命館アジア太平洋大学に加え、全国25ヶ所の附属校を有する私立総合学園です。2025年7月に両者でSTEAM教育の推進に関する協定を締結し、日本の理科教育の革新を促す教育モデルの創出と次世代人材の育成を目指しています。

学びと遊び　大阪・関西万博デザイン展



【STORY】
「大阪・関西万博デザイン展」は、2025年10月に大阪府立江之子島文化芸術創造センター（enoco）で開催した、万博デザインのプロセスを学ぶ企画展です。ロゴ、ミャクミャク、デザインシステムをいのちの循環になぞらえて紹介するほか、デザインの歩みをたどる年表、EXPO WORLDs、制作過程のスケッチや資料を展示。万博を形づくったデザインが生まれ、広がっていくまでの舞台裏を紹介しました。

【受賞者】
読売新聞社、株式会社VISIONs、株式会社人間、株式会社ツナトゥーテン
「大阪・関西万博デザイン展」は、読売新聞社、VISIONs、人間、ツナトゥーテン4社で企画・開催しました。読売新聞社は幅広い情報発信やリアルな事業を展開、VISIONsは多様なクリエイティブチームが、人間はユニークな企画や広告を生み出す企画会社、ツナトゥーテンはアクロバティックな表現を活用した体験や空間をデザインしています。

藤本壮介
審査委員長

【審査委員講評】
万博をきっかけたデザインには、完成した姿だけでは見えてこない、たくさんの試行錯誤や対話が込められています。その過程まで集め、展示し、社会へ問いてくれたことに感謝を感じました。会場の記憶だけでなく、そこに込められた知恵や思いまで未来へ手渡してくれる取組です。

平和と人権　水の輪、時の輪、世界の輪　― 能で未来を共創する ―

【STORY】
約700年の歴史を持つ能楽を「守る文化」から「未来を共に創る文化」へ。山本能楽堂は大阪・関西万博で約30回の活動を行い、約700人の子ども たちと「水の輪」を上演。さらに中高生を子ども・クラブバンドとの共創により、海の環境と未来を考える新作能「時の輪」を観客参加型で創作しました。万博で生まれた人と人、文化と文化のつながりを世界へ広げ、伝統芸能の力で平和で持続可能な未来を共に創る取組を続けています。

【メンバー】
公益財団法人 山本能楽堂
観世流能楽師を伝えるべく、1927年に大阪・谷町に創設された、約100年の歴史を持つ関西最古参の能楽堂。「Tradition for a better future―伝統をより良い未来へ」を理念に、能を「現代に生きる魅力的な芸能」として未来へ継承、教育普及、創作能の創作、青少年との共創、海外公演を通じ、伝統と現代、地域と世界をつなぎ、文化の力でよりよい未来社会を共に創る活動を展開しています。

地球の未来と生物多様性　浜名湖八犬伝　―浜名湖からはじまる愛犬との新たな旅―

【STORY】
わんちゃんフレンドリーな地域静岡県浜名湖周辺、日本の中心に位置しアクセスもしやすいためその愛犬家の皆様に近年愛されている浜名湖八犬伝は、浜名湖を舞台に愛犬と巡礼地を巡りながら様々な驚きながら絆を深める地域回遊イベント。浜松市と周西の自然や文化、地域の人々とのふれあいを楽しみながら観光だけでなく動物福祉、犬叶防災、健康、若者育成へとつなげる新しい浜名湖発の魅力発信プロジェクト。

【メンバー】
浜名湖八犬伝プロジェクト
浜名湖・舘山寺（かんざん）温泉エリアの観光振興を牽引する舘山寺温泉観光協会、地域共創を進める浜名湖社中株式会社、人と動物の共生を軸に企画統括する株式会社COREZONの三者で運営。遠鉄観光開発株式会社をはじめ地元企業様の協力を得て、2026年10月に開幕予「舘山寺犬祭り」を開催。今には4ヘットの犬のイベントを予定し、2027年以降は庄内半島・弁天島へ、最終的に浜名湖一周イベントへと展開予定。

地球の未来と生物多様性　「サンド・アライアンス」から「とっとりサンドパビリオン」へ

【STORY】
ヨルダン最の赤い砂を受入れ、その上で関西万博/パビリオン鳥取砂コーナーで展開した投影映像や、当館撮影アパスを使用した鳥取の魅力の探求体験を再現。また、万博会場内での各国・地域との交流拡げ入れた、加盟パビリオン提供のスタッフ派遣など、「砂」を起点とした世界とのつながりを結ぶすることコーナーを整備。「砂」という身近な素材を通じたつながりを地域観光魅力としたたことに本取組の独自性と価値があると考えています。

【受賞者】
鳥取県
関西パビリオン鳥取砂コーナーで鳥取砂丘を再現した「鳥取無限砂丘」と"まんが王国とっとり"を展示するやで、「砂」をゆかりにヨルダンはカブパビリオンとアライアンスを結ぶ博会場内でするムコラリーやSNS発信などで相互に盛り上げた。開幕後には鳥取やアライアンスを経験・再現し結かする取組を整備し盛り上げを継続していた。

コシノジュンコ
審査委員長

【審査委員講評】
ヨルダンから届いた砂が鳥取砂丘の砂と出会い、国を越えたつながりの証として、長く残っていくことに感動しました。私自身も、かつてヨルダンで砂の上を裸足で歩く夢一生行い、そのことを思い出しました。素晴らしい取り組みとして鳥取とヨルダンの双方に審査委員賞を贈ります。

SDGs＋Beyond　森になる建築｜Foresting Architecture

【STORY】
「森になる建築」は大阪・関西万博の休憩所としてつくられた建築です。植物由来の生分解性樹脂を3Dプリントしてつくった構造体に、みんなでつくった植人りの紙を貼り、そこから植物が芽吹きます。建築としての使命を終えると、長い時間をかけて森になります。「建築の終わりに目を向けることで、使うだけでなく、一緒につくり、大切にし、地球の循環へと戻っていく、その流れ全体をたくさんの人と共有することを目指しました。

【受賞者】
「森になる建築」プロジェクトチーム
代表活動者：山崎寛史、大石幸奈、濱田明徳、藤川敏行　活動者：原良幸太郎、内山花希、冷谷朋典、奥山広志、杉本涼太朗、濱田純次、栗原直明、井戸裕貴樹、稲葉恵、植尾健、高橋恵、向山雅之、加藤亜美、伏木航平、大橋浩介、遠藤由夏、仲代美音、株式会社竹中工務店　協賛企業：株式会社ダイセル、エスケー化研株式会社、株式会社二口工務店、株式会社高木成合社、大和建設株式会社、兵庫県立人と自然の博物館　協力企業：3Sbi

山極潤一
審査委員長賞

【審査委員講評】
3Dプリンターでつくった建築が、時間を かけてよこへ進う、そこからいのちが芽吹いています。その大胆な発想に思かされました。万博で終わらせず、研究所の敷地で20年、30年と全七を見守っていく覚悟にも胸を打たれます。建築と自然の関係を変えていく挑戦を応援したいです。

SDGs＋Beyond　Seed FOR The Future 〜未来への種まき

【STORY】
建設現場と、廃棄物の人工島F夢州above all何が違うのか。生ゴミを堆肥に、食べ残しの種を植える人。浮が出てもおれ、業が出ても落ち、石も減ることなく月日は流れました。関西万博で見つけた問い掛、未には笑がなっていました。ゴミの島に移植された木に笑が、自然の仕人工に自ずれない、自分が植えていたのは「自然」だと思い直しました。誰でもどこでも日常で出来ること、「プランター」に未来を植える」1人1人の取り組みです。

【メンバー】
Sanchiro NAGAKAWA
ずっと教育に携わってきました。大切にしてきたことは「人の中には、たくさんの種があるんなかか浮かでなかったり、拓れたり、花が咲かなかった、実にならには、時間がかかります。時に足守りをおきます。この活動と同じです。1人の活動は大勢になれば自然と未来を動かすのではないでしょうか。自分のプランターに、夢や希望、そして未来を植えてみませんか。世界に一つだけの自分自身の自然への取り組みです。